



編集長の病院訪問

編集長の
突撃訪問

「地域に根ざした世界水準の医療」 川島整形外科病院

川島整形外科病院



よく通る声で最新の治療法について説明する川島院長

小誌編集長が県内の病院を訪ね、病気や治療法の最新情報をレポートします。今回は高気圧酸素治療をはじめ、関節鏡、リハビリなどで世界水準の技術を誇る整形外科です。

高気圧酸素治療は血行不良や圧力障害に起因する疾患に有効な治療法で、近年はスポーツ界からも注目されています。この高気圧酸素治療に早くから着目して研究、開発を続け、国際的にも目覚ましい成果を挙げている川島整形外科病院（中津市）を訪ね川島眞人院長（医療法人玄真堂理事長）にお話を伺います。

画期的な高気圧酸素治療
—まず高気圧酸素治療とはどういふものですか？

川島 体内の酸素が一定以下になると、人間の臓器にはさまざまな障害が現れます。その状態を改善するのが高気圧酸素治療です。

高気圧酸素治療とは、患者さんが入り、2〜3気圧（絶対気圧）にまで加圧した環境で純酸素を吸入すると、通常生活している大気圧下（1気圧）に比べて、10〜20倍の分圧の混合気体（大気）の各成分気体の圧力（酸素分圧）を体内に供給することができ、体内に豊富に取り込んだ酸素の薬理的働きによって、組織や神経細胞、筋肉細胞が修復されるというわけです。血液の中の白血球が細菌を殺菌するときに必要な高エネルギー酸素（フリーラジカル）を増加させて殺菌力を高め、感染に対する防御力を高めることにもつながります。

川島 副作用はないのですか？
川島 加圧時の耳痛が主なものですが、耳抜きの方法を覚えれば問題はありません。

川島 この治療法はどんな病気に効果がありますか？
川島 以前は潜水病や一酸化炭素中毒

毒など限られた病気への応用にとどまっていた。今日では骨髄炎、骨壊死、難治性潰瘍、脊髄障害、糖尿病による血行障害、急性脳梗塞、閉塞性動脈硬化症、ガス中毒、ガス壊疽、脊髄神経疾患など過半数は幅広く広がっています。

川島 この治療法に携わるようになったきっかけは何ですか？
川島 九州労務病院に勤務していたころから潜水病と骨壊死の研究に取り組んでいました。1975年にダイバーの潜水病による骨壊死が日本でも初めて労務病として認定され、そのころから世界各地の学会で研究結果を発表してきました。

川島 先生の研究は世界レベルのものですが、全国から患者さんや研究者が訪れているそうですね。
川島 近年は韓国、中国から専門家が視察や研修に来られました。また1994年に中津で日本高気圧環境医学会が設立されました。一つのことしかできない医師はだめで、トータルにゼネラルなことができればなりません。そこに哲学が生まれ、さらに感性も要求されるのです。医師、特に外科医にはセンスが必要だと考えています。

医学界が開かれました。宇宙環境でも高気圧の場合とよく似た症状が起こるため、宇宙医学の領域にも広がりを見せていて、2008年には日米宇宙潜水高気圧会議が中津で開催される予定なんです。

関節鏡による整形外科手術

—最近整形外科の手術も様変わりしていて、関節の手術にも内視鏡が使われているそうですね。

川島 患部に5ミリ程度の小さい切

重なっています。

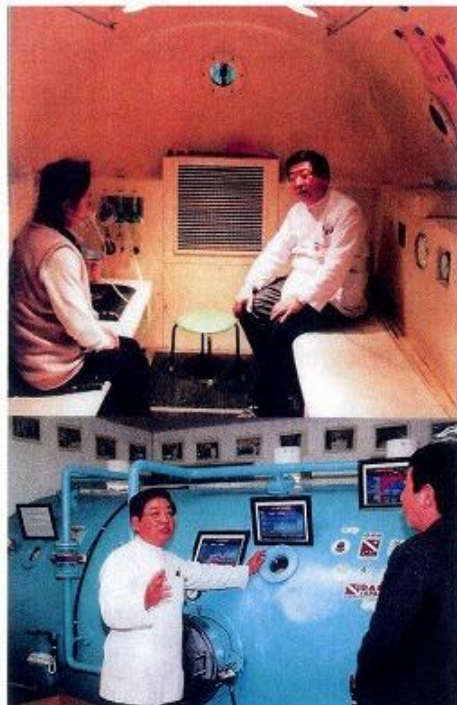
川島 リハビリテーションセンターも大変充実していますね。
川島 年間1200例の手術を行っているのですが、術後の患者さんを送るだけ早く回復させるためにはリハビリの機能が整っていることが不可欠です。現在、私どもの医療法人全体で17人の理学療法士、5人の作業療法士をそろえて効果的なリハビリに取り組んでいます。コルセットなど義肢装具も外部の業者任せにせず、専門スタッフが一人ひとりの患者さんにフィットする器具を提供しています。

川島 患部から中津下毛圏域のリハビリテーション広域支援センターの指定を受けていて、地域のリハビリ機能のレベル向上を目指して年間10回ほどの講習会活動も行っていきます。

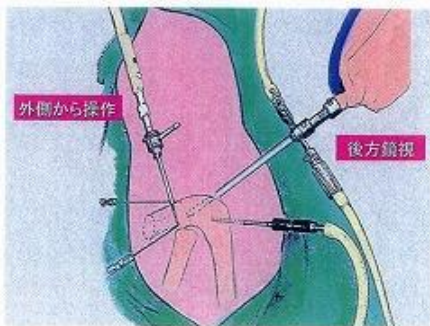
高い志の理念を掲げ

川島 先生のごつた研究と実績は世界的にも注目されていますね。

川島 われわれの理念は「地域に根ざした世界水準の医療」です。地域にいながら世界のトップレベルの医療を行うというものです。私も毎年2



まるで潜水艦？のような高気圧治療装置



関節鏡視下で行う肩峰下減圧術

「病院の規模はどのくらいですか。スタッフは非常勤を入れて総勢約250人です。常勤の医師が9人、看護士が1000人です。ほかに理学療法士、作業療法士、放射線技師、ヘルパーなどのスタッフをそろえています。従業員のための保育園も設置しているんです。」

中津の歴史に魅せられて

「先生は医学の歴史、つまり歴史の研究をされていて、中津を中心に随分と先人の足跡をたどっていらっしゃいますね。」

「先生は中津という土地は、福沢諭吉で有名なだけではなく、日本の整形外科発祥の地ともいえるのです。」



歴史の話に心を熱くする

「解体新書」を翻訳した中津藩医・前野良沢、九州で初めて人体解剖を行った村上玄水。マンガラゲを主成分とした麻酔薬を使用して世界で初めて全身麻酔による乳がん手術に成功した福岡青洲の流れをくみ、中津医科大学の初代校長となった大江雲澤。日本科学の父・田代基徳ら日本医学を代表するパイオニアたちを数多く輩出しています。」

「先生が歴史に興味を抱かれたきっかけは？」

「私は中津の福沢諭吉邸から500mも離れていないところで生まれ育ちました。小学校時代は姉と共に諭吉の旧家を掃除していたくらいですから、諭吉はとても身近な存在でした。郷土史家でもあった小学校の松山均先生から「諭吉の生家から「諭吉の本を讀みなさい」と言われたのが、歴史に興味を持った最初です。その後、医師となり、長年勤めた九州労災病院の天児民和院長から「中津は整形外科の開祖、田代義徳先生の

養父、基徳先生の出身地だ。調べてみると面白いよ」と言われ、その言葉がきっかけとなって中津の医学史をひもとくようになったのです。」

「中津の歴史の顕彰活動にも取り組んでおられますね。」

「所属する中津ロータリークラブで中津駅前に「蘭学の泉ここに湧く」のモニュメントを建てたり、村上玄水や大江雲澤の家に残された史料を集めた「村上上医家史料館」「大江医家史料館」の開設に向けて奔走したり……。歴史の中に埋もれた事実を発見するときの喜びは例えようがありません。中津にある大江雲澤の家を調査していたら福岡青洲の画像や外科手術図などが発見され、当時の中津藩から福岡の大坂分業に5人の医師が派遣され、学んだことが分かりました。」



完全無痛手術の様子をモニターでチェック。患者の家族にビデオ提供もする

「九州といえは江戸時代の医者が麻酔薬を開発する過程で母を亡くし、妻が盲目にもなった壮絶なストーリーがありにも有名な話です。」

「実は大江家の青洲画像に書かれた文字が薄れて解読できず、和歌山県に青洲のお墓を訪ねてみたことがありました。そこに建つ碑に同じ文章が全文彫られているのを発見し、全

原動力です。なかなか治らなかつた疾患の新しい治療法が見つかったときにはなんともいえない躍動感があります。不治の病を治すことは医者にとって最大の喜びなんです。」

「パイオニアといえは、前野良沢についてもお話しは？」

「ほんのちよびりです（笑）。『解体新書』の翻訳で知られる良沢は両親が早く亡くなったため伯父に養われ、「人のしないことをせよ」「すたれた才能をせよ」「感性を磨け」と教えられたそうです。良沢はまさにそれを実行したわけですね。彼は笛の名手としても知られています。私も笛を吹くのが趣味なんです。私の座右の銘は、大江雲澤の「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」という言葉です。患者の心に耳を傾けなければ医は真の仁術とはいえない。一つの治療をするにもいろいろな文献を読み、多くの先輩、同僚の意見を聞き、患者さんの話をよく聞き、状態を観察しながら極めて慎重に術を施さなければならぬ。患者本位の医療、これが私の根幹です。究極のリスクマネジメントです。私はこのことを病院の経営方針に盛り込んであります。どんな優れた技術や設備があってもそれを生かす心がなければなりませんから

「その理念は病院の中にも見事に反映されていますね。」

「患者さんへのサービスを向上させるため情報の共有は欠かせません。当院では電子カルテやweb環境など情報交換のためのツールを整備しているほか、スタッフの院内勉強会やカンファレンス（会議、協議）を積み重ねて職員全員の情報も構築されていて、研修プログラムを作り、システマチック（体系的）に教育を行っています。その成果なのか、当院のナースは看護法の本を執筆するくらいのレベルになっていますよ。」

先生は日本医学会の評議員も



強い力を使わずに筋骨や関節を動かすことによって無理なくリハビリ効果を高めるノルウェー式の最新器具

「務めておられますね。」

「日本医学会は日本で最古の学会なんです。来年5月には中津市で第107回の日本医学会が開催される予定です、非常に楽しみです。」

「2008年には日米宇田潜水高気圧会議が中津で開催されますし、これからますます忙しい日々が続きますね。」

「忙しいのはいいんですが、歴史発掘のための大好きなお墓巡りが最近思うようにできないのはちょっと寂しいことなんです（笑）。」

「毎日の診療に加え、学会、講演、歴史探訪と、本当に多忙を極めておられますが、ご自身の健康法は？」

「沖縄のミカン、シークワサーと豆乳を混ぜて毎日一杯飲むと、血糖値もコレステロールも下がってとても体にいいそうです。ぜひお試しください。」

「医史不仁の術」

「医史の発掘で得られたものが先生ご自身の医療活動にも影響を及ぼしているのでしょうか。」

「未知のものや遭遇するとワクワクしますし、パイオニア精神が駆り立てられます。歴史は私にとって



病院 DATA
川島整形外科病院
 中津市宮夫14-1
 TEL.0979-24-0464
 シン科目 … 整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科